

## 北広島市立学校適正配置等審議会 会議録

日 時	令和4年12月15日(木) 18時30分 ~ 19時45分
会 場	市役所 3階 会議室3D
出席委員	岩本麻実委員、岡田一之委員、菅野清徳委員、立花秀俊委員、辻村匠委員、常田拓孝委員、中村寛成委員、西崎毅委員、西村暁子委員、ハンラティーン梓委員、前田優委員、松本広徳委員、村山明子委員、若林公一委員
欠席委員	なし
市出席者	【教育委員会】吉田教育部長、後藤教育部理事、花田学校教育課長、 (庶務)下野教育総務課長、相木主査、田中主任 【オブザーバー】川村企画財政部長、佐藤企画課長
傍聴者	3名

## 1 開会

委員の過半数が出席していることから、会議が成立していることを確認し、開会。

## 2 会議録署名委員の指名について

会議録署名委員として菅野委員を指名。

## 3 報告

## (1)適正規模・適正配置検討事業の取組について(令和4年9月~11月)

教育総務課長から、資料1に基づき令和4年9月から11月の取組を説明。

## 4 審議

調査審議事項1、本市の特性を踏まえた市立学校の配置について、調査審議事項2、小中一貫教育の更なる推進を図るための方策について審議。

始めに、調査審議事項1について、事務局からまとめ案として、市立学校は、東部地区、西部地区、大曲地区、西の里地区、北広島団地地区それぞれの地区内で中学校区を設定し、そのうえで、学校の適正規模・適正配置については、5つの地区内でそれぞれ検討を行うものとするを提起。

## 【A委員】

- 5地区それぞれで学校を配置するという点について、地域説明会でも、それぞれの地区に学校はあるべきだという意見が上がっていた。子どもたちの学びの場のほか、地域の人が集う場所である学校がなくなってしまうことは考えられないという意見もあった。それらの意見も踏まえ、それぞれの地区の特性を考えて検討していくことについては良いと思う。

## 【B委員】

- 委員と同じ意見であり、児童数に差があるなど、地域の実態もあるので、5地区についてまとめて考えるのではなく、地区ごとに応じて検討していくことに賛成である。

## 【C委員】

- 前回の審議会で、部活動による子どもたちが切磋琢磨できる環境づくりといった視点から複数校の統合という案もあったが、ベースとして生活圏内に学校があるべきというのはもっともだと思う。通学圏内に住みたいため引っ越したという方もいらっしゃるということなので、生活圏内から学校がなくなるのは考えにくいと思った。このようなことから、それぞれの地区の中で学校の在り方を考えていくのが良いと思う。

【D委員】

- 学校の配置としては、現在のまま5地区にあるのが望ましい。
- 以前、とうべつ学園に行ったことがあるが、施設としてもきれいで広く、素晴らしい学校であったが、9年生で各クラス2クラスずつしかない状況であった。コンパクトシティ化する狙いがあったものと思われるが、北広島市にはなじまないのではないかと。5地区それぞれの地域性を育む方が北広島市にとっては良いと思う。
- 市内の学校施設の老朽化が進んでいるので、健康や安全面を考えると、子どもたちにはもっときれいなところで学ばせてあげたい。きれいな学校施設は市としてもPRになり、定住人口も増えるのではないかと。来年度、子ども家庭庁ができ、これまで縦割りでそれぞれ管理されていたものが、保育園等も含めて一元的に管理されるようになる。市としても、学校単位ではなく、子どもというカテゴリーで一元的に考えるべき。また、他の地域のコミュニティとしての場も、老朽化でなくなったりしているので、それらを含めた箱ものについて市として考えてはいかかか。

【会長】

- D委員がおっしゃられたような、施設としての在り方については、ぜひ今後の機会に意見交換したい。
- 事務局からのたたき台の案の内容について他に意見はないか。

【E委員】

- 生活圏内に学校があるのは安心。地区の特性を生かしながら検討していくべき。それぞれの地区の良い面を生かしながら、子どもたちがより過ごしやすく学びやすい環境づくりをしていけたらと思う。

【F委員】

- 5地区それぞれで検討していくことは良い考えであると思う。しかし、学校の小規模化は、教育の質の低下が懸念され、免許外指導も許容していかなければならないのかもしれない。複数校の巡回も必要になるかと思うが、小中一貫教育の一つの在り方として、小中学校両方で教えることが可能とするなど、柔軟な対応しつつ、5地区それぞれで特色ある教育を進められればと思う。ボールパーク効果で財政的に潤って、ぜひ教育にも還元してもらいたい。

【会長】

- 教師の配置については、生徒数ではなく学級数で決まるため、地域によっては厳しいこともある。巡回も含めて、そのなかで教育環境を充実させていく必要がある。

【G委員】

- 5地区それぞれに学校が配置されるのであれば、今後人口を増やしていくという目標にも沿っていると思う。人口が減少していくことを見越してということであれば統合ということにもなってくると思うが、人口が増えることを見越して学校の配置を考えるのであれば、5地区それぞれに学校を配置すべきである。ただ、団地地区は、広葉中と緑陽中が統合することが考えられるので、どちらに集約されるのか、また、双葉小と緑ヶ丘小からの通学距離の面からもどちらに重点がおかれるのか、気になるところではある。

【事務局（教育総務課長）】

- 提示した案について、いろいろな意見をいただいた。団地地区については、今は保護者や地域の方に向けて現状を伝えている状態であるが、5地区ごとに検討していくということであれば、今後、統合も含め、選択肢を絞り込んだ上で提示して議論していける。
- 教員数の増加については国に要望を出しているところであるが、少人数学級化して学級数を増加できれば、教員数も増やせるかもしれない。他の自治体も同じ要望をしているので、今

後の動向を見守っていただければと思う。

- D委員から意見があった学校施設については、調査審議事項3「これからの学校施設に求められる機能について」に関わってくるので、その際にご意見をいただきたい。ちなみに、当市の学校の長寿命化計画を策定する際に、東京都北区のなでしこ小学校の視察を行ったところ、とても大きな学校であったが、小学校のほか、学童クラブや保育園も併設されるなど、敷地内で完結していた。また、複合的な利用ができるようにということで、特別教室棟では子どもが帰った後、普通教室棟との間に鍵をかけて、地域のサークル活動に利用されたりしていた。また、そのような活動の中で地域の人が授業で子どもたちに陶芸を教えるなど、学校と地域の交流の場にもなっている。当市でも、安全対策を講じた上で、今後どのように学校施設を利用できるかを考えていきたいと思うので、ご意見をいただければと思う。そう遠くない時期に学校施設の建替え等についても考えなければならないので、その際は、このような先進的な学校を参考にしつつ、コンセプト等から考えていければと思う。

## 【会長】

- 概ね議論の方向性がまとまったかと思う。本審議会としては、事務局案のとおり、「市立学校は、東部地区、西部地区、大曲地区、西の里地区、北広島団地地区それぞれの地区内で中学校区を設定する。そのうえで、学校の適正規模・適正配置については、5つの地区内でそれぞれ検討を行うものとする。」としたいと思うが、よろしいか。

(異議なしの声あり)

調査審議事項2、小中一貫教育の更なる推進を図るための方策について、事務局から諮問趣旨、論点等を説明。

## 【会長】

- はじめに、実際現場で指導に当たられている学校の先生に、さらに推進する観点から、現状と課題、アイデアなど、ご発言をお願いしたい。

## 【H委員】

- 小中一貫教育は今の世の中の流れに準じたものであると思う。昔は中学校に進学するときは別世界に飛び込むというイメージがあったが、今は小学校と中学校のギャップをなくすことが必要。その究極の形が義務教育学校であると思う。義務教育学校になったら学年の分け方が自由になる一方、よりよい形を考えることが求められる。いろいろな分け方が考えられ、例えば前期課程7年、後期課程2年として、前期でひたすら基礎を学んだ後、後期は受験に向けた勉強とするなどの形もできる。
- 西部小・中学校は、今も隣に位置しているので、小・中学校の子どもが一緒になることについては違和感がない。西部地区にとって、市の方針として5地区に中学校区を残すとなったことは、地区から学校はなくなるということとなり、ありがたい。

## 【会長】

- 小中一貫教育に関わり、施設の分離型についてのご意見も伺いたい。

## 【I委員】

- 大曲地区は2小1中で形成しているが、先ほどの調査審議事項1の結論の理由(2)に書かれている、小中一貫教育を推進する上で、小学校と中学校が日常的に交流できる範囲内にあることが望ましいとされている距離についての視点は、活発に交流を行う上でも大事だと思う。学校間の距離が離れていたら、現実問題として行き来が難しいので、距離は近いにこしたことはない。
- ソフト面だけで考えると、9年間の学びの結果について、学校間の共通意識として持つな

ど、距離が離れていてもアプローチは可能である。わかりやすい授業や、学級経営に係ることなどの研究課題も統一できればよいと思う。難しい面もあると思うが、当市においては、これまで経験と努力で乗り越えて小中一貫教育を行ってきた。

- 義務教育学校の設置に関しては、分離型及び施設一体型それぞれのメリットとデメリットを考える必要がある。組織体制が異なることに加え、それぞれの地区に残したにも係わらず通学距離が延びてしまったり、ランニングコストの課題などもある。5地区それぞれの特性を生かした良い教育の形ができればと思う。

【B委員】

- 北広島市の教育の目玉は小中一貫教育であり、管内でも突出して進んでいると思う。最初は中一ギャップの解消ということで、不登校や学力の挫折をなくすことが目的だったと思うが、他にも多くの効果があると思っている。小学生にとっては中学校に行くだけでも新鮮で、合同で授業を行うことで、中学校の先生に教えてもらえる経験ができています。そのような中で、小学生は中学校の先輩を尊敬する一方、中学生は小学生の前で先輩らしく振舞うようになるなど、学習内容だけではなく道徳的にもメリットになる部分が多い。
- 施設一体型か隣接型かを選択する際は、児童生徒数や学校間の距離などの課題も含め、慎重に検討する必要がある。個人的には、西部地区は義務教育学校化することで地域の特色が出るのではないと思う一方で、大曲地区であれば隣接型とした上で小中一貫教育を進めていければ良いと思う。他の地区も、施設の老朽化の状況等も含めて検討していければと思う。
- 先ほど、とうべつ学園についての話があったが、設立時のお金はかかるが、教育環境が整っていて生徒も先生も過ごしやすいと聞いている。様々な課題もあるが、通っている子どもたちからは好評であるようだ。きれいな環境の中で学べることは幸せであると思うので、市内すべての地区で義務教育学校とすべきとは思わないが、地区ごとで良い教育環境の在り方を考えていければと思う。

【会長】

- 今回いただいた意見を踏まえて、次回の審議会でさらに議論を深めていただきたい。

5 その他

(1) 次回審議会の開催について

事務局から、後日日程調整したい旨説明。1月下旬～2月中旬

6 閉会

令和5年2月6日

会議録署名委員 菅野 清徳